

国際広報メディア・観光学専攻

国際広報メディア研究コース

令和9年度
前期

日本語論述

10:00～12:00

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
2. 問題紙はこの紙を含めて2枚ある。
3. 解答用紙(25字×40行=1000字)は2枚ある。
4. 解答用紙は2枚とも全て必ず提出すること。
5. 受験番号は全ての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
6. 選択した問題番号は全ての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
7. 解答は全て解答用紙の指定された欄に記入すること。
8. 下書き用紙を別途配付するが、問題紙の余白を下書きに使用しても差し支えない。
9. 問題紙及び下書き用紙は試験終了後回収しない。

以下の問題 1～4 のうちから 1 題を選択し、1600～2000 字の日本語(横書き)で記述しなさい。なお、適当な箇所で行って段落に分けること。また、字数は改行のための空を含めて計算する。

【問題1】

過去の作品の設定や表現が現代の価値観と合わなくなった場合に、その扱いについて判断が分かれることがある。例えば、登場人物が単一の人種やエスニック・グループのみで構成されている小説を映画化する際に、原作に忠実な配役にする判断もあれば、多様性を持たせる判断もある。あるいは、現代の基準では差別的な表現が漫画に含まれている場合に、別の表現に差し替える判断もあれば、注釈付きで元の表現を維持する判断もある。このような価値観の変化に応じた作品の扱いについて具体例を挙げながら論じ、あなたの立場を示しなさい。

【問題2】

訪日外国人観光客に対して、日本到着後に必要となる情報を適切に提供することは重要である。その方法の一つに多言語化環境整備がある。例えば、交通機関では円滑な利用を可能にするための多言語表示やアナウンスがされることがある。また、飲食店では料理の説明だけでなく、アレルギー表示なども細かく表示することが必要かもしれない。このような観光客に向けた多言語化環境整備を進めた場合、どのようなメリットとデメリットがあるか。具体例を挙げてあなたの考えを述べなさい。

【問題3】

災害や事故などが起きたとき、情報を伝える側は、「一刻も早く伝えること」と、「内容が正しいかどうか確かめてから伝えること」の両方が求められる。早く伝えれば人々の役に立つこともあるが、間違った情報が広がってしまう危険もある。逆に、確かめることを優先すると、伝えるのが遅くなってしまう。この二つのうち、あなたはどちらをより大切にすべきだと考えるか。具体的な例を挙げ、あなたの考えを論じなさい。

【問題4】

近年、働く人の心身の健康や生活の満足度を表す言葉として、ウェルビーイングやクオリティ・オブ・ライフ(QOL)という概念が注目されている。こうした考え方をふまえ、企業では残業時間の削減やテレワークの導入といった働き方改革が進められている。これらの取り組みは、働く人のウェルビーイングや QOL を高めるうえでどのように役立つと考えられるか。また、どのような課題が残されているか。具体例を挙げてあなたの考えを述べなさい。